

事項	暑熱期におけるTMRの適切な水分含量		
ねらい	酪農経営において、暑熱期は環境的なストレスに加えて飼料の変敗による嗜好性低下が原因で、生産性の低下を引き起こしやすい。 そこで、暑熱期のTMRの温度変化やpH推移に着目して効果的な飼料調製技術を検討したところ、水分含量の違いが変敗速度や嗜好性に影響を与えることを明らかとしたので、参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 暑熱期におけるTMRの適正水分</p> <p>(1) TMRを自由採食により不断給餌する場合は水分率45%とする。</p> <p>(2) 1日複数回に分けて短時間内にTMRを完食させている場合は水分率55%（高水分）とする。</p> <p>2 水分含量の異なるTMRの特徴</p> <p>(1) 高水分TMRは発熱しやすく、最高温度に達する時間が短い。</p> <p>(2) 高水分TMRはpHの上昇が早く、変敗しやすい。</p> <p>(3) 採食速度は高水分TMRの方が早い。</p> <p>(4) 混合直後に給与したTMRに比べ、16時間脱気保存したTMRは変敗が早いため、採食速度は遅くなる。</p> <p>(5) 選び食いの程度は、水分45～55%の範囲では差がない。</p>		
期待される効果	夏期において、給与体系にあわせた適正な水分量でTMRを調製することにより、採食量の低下を軽減できる。		
利用上の注意事項	<p>1 使用したTMRは、デントコーンサイレージ及びオーチャードグラス乾草の混合割合をそれぞれ40%及び25%とし、その他に濃厚飼料等を混合して調製したものである。</p> <p>2 TMRの選び食いについては水分含量だけでなく、粗飼料の切断長の影響を受ける。</p>		
問い合わせ先(電話番号)	畜産研究所 酪農飼料環境部 (0175-64-2791)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成24年度東北農業試験成績、計画概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

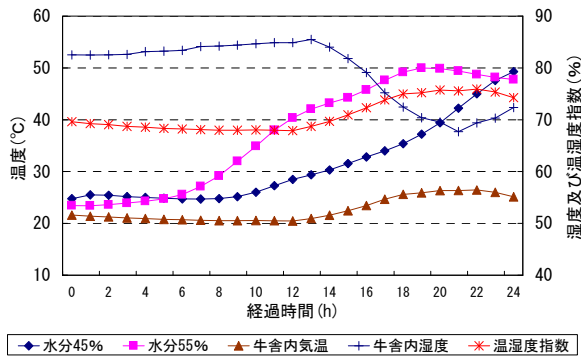


図1 TMR内部温度の推移(平成23~24年青森畜産研)

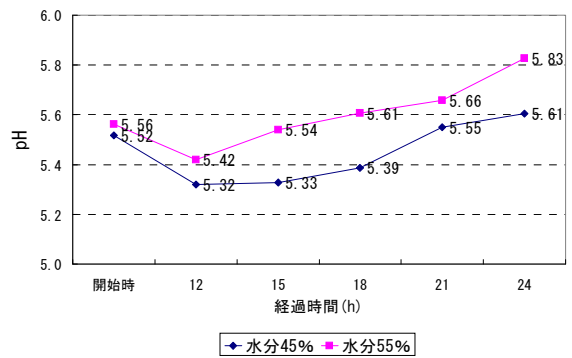


図2 TMR内部のpHの推移(平成23~24年青森畜産研)

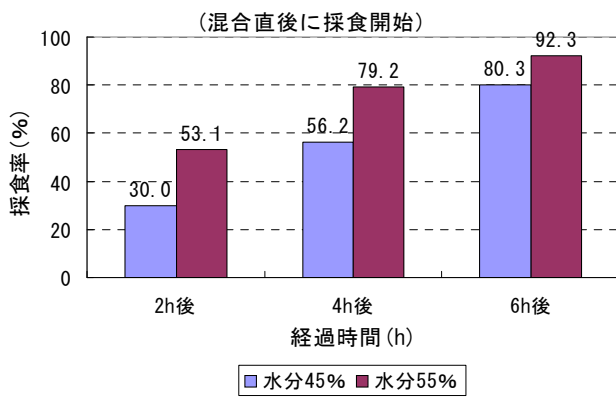


図3 水分含量の異なるTMRの採食速度の違い(平成24年青森畜産研)

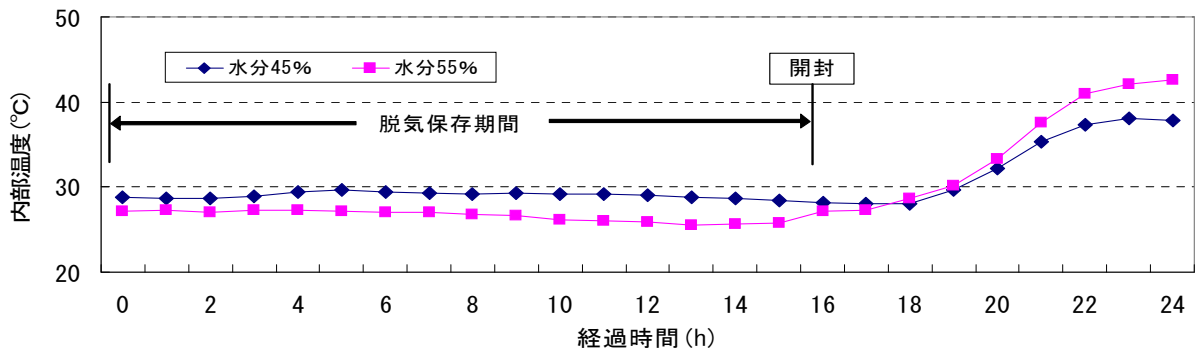
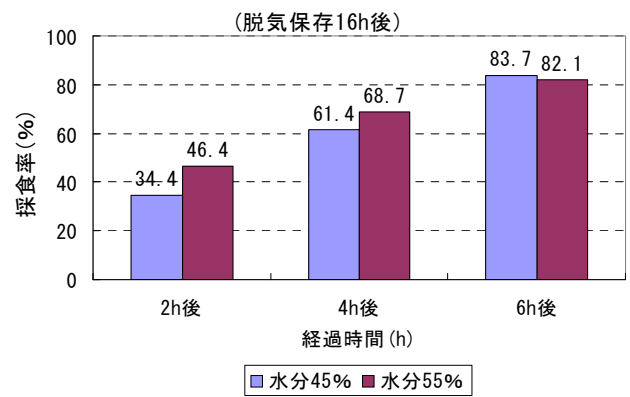


図4 脱気保存したTMRの内部温度の違い(平成24年青森畜産研)

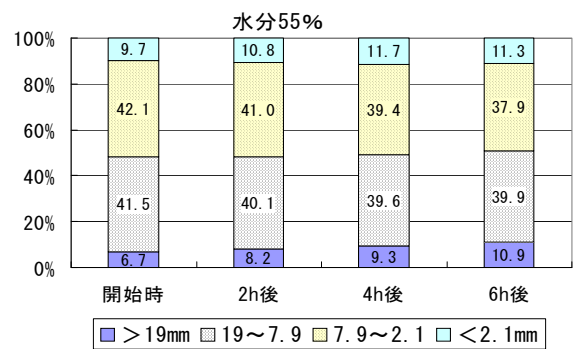
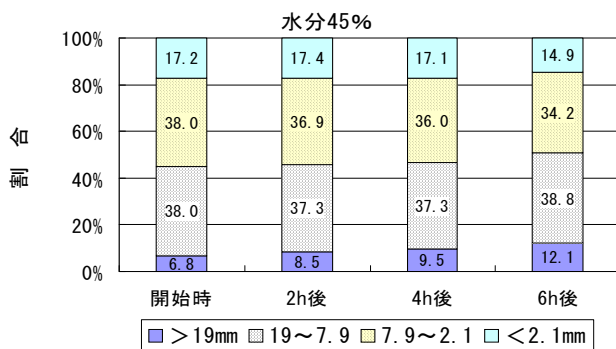


図5 水分含量の異なるTMRの選び食いの違い(平成24年青森畜産研)